

仲間がいるから震災は乗り越えられる

『負けねぞ』

(岩手地本)

岩手の震災から新年を向かえて

あの未曾有の災害から早いもので9カ月が経過。がれきに埋もれていた町が、今少しずつ活気を取り戻し始めている。

被災者となった沿岸地方の組合員は、当時は夢でも見ているかのようで、現実を受け入れることが難しかった。震災後、至る所で「頑張って」や「心は一つ」などという言葉が使われた。しかし、家を失い、財産を失い、思い出さえも奪われた身に対して、あまりにも無神経な言葉だと思った。我々に何を頑張ればいいのか・・・と落胆いたしました。



組合員は、家族交流会で話をされた岩手地本森執行委員長の言葉が忘れられない。「今生きていること、普通に日常を送っていることに感謝を忘れないでください。無理に頑張らなくても大丈夫」。この言葉に勇気をもたらったという。

2011年3月11日に起きた「東日本大震災」で多くの被害を受けた、沿岸地方の組合員・家族は全国の仲間からの支援によって新たな新年を迎えることが出来ました。しかし、未だ家族や友人の人たちが行方不明でありったり、仮設でストレスを抱えて暮らす仲間がいることで心底新年を祝うことができないと溢れる涙をこらえることができない。岩手地本の森委員長は、震災を見たときはため息しか出なかったが、現地の組合員・家族の前向きな姿を見て逆に元気をもたらした。今後の支援は金銭面だけではなく心の交流が大事になると思う。被災した組合員・家族の人たちが困難を乗り越えられるよう全国の仲間の皆様方ともに支援を続けたいとした。震災の爪痕は簡単には拭えないが、それでも一歩ずつ前に進んでいきたい。全国の仲間の皆様方に復興への支援を「心からありがとうございます」と改めて伝えたい。